

厚生労働科学研究費補助金 (がん対策推進総合研究事業)
 (分担研究報告書)
 診断されて間もない人への情報提供資材の活用に向けた検討
 ～医師や医療者が効果的に活用するには～

研究分担者 鈴宮 淳司 社会医療法人駿甲会 コミュニティホスピタル甲賀病院 (副院長)

研究要旨

がんの診断後間もない患者を対象として作成された情報提供資材(冊子)『がんと診断されたあなたに知ってほしいこと』の普及および活用方法に関して、臨床現場の医師および病院管理者の立場から議論に参加した。医師や医療者がこの冊子を活用するためには、冊子活用によるメリットを周知すると共に、がん診療連携拠点病院をはじめとする各施設の管理者や担当者(問題意識を持つ医師、がん専門相談員など)を巻き込み、主治医が診療時に冊子を使用できる環境や体制を整備することが求められる。

A. 研究目的

本研究班では、がんの診断後間もない患者を対象として作成された情報提供資材(冊子)『がんと診断されたあなたに知ってほしいこと』の普及のための方策を提示することを目的としている。臨床現場の医師および病院管理者の立場から議論に参加し、具体的な活用方法について検討を行った。

B. 研究方法

臨床現場の医師および病院管理者の立場から、本研究での調査や具体的な活用方法についての議論に参加し、研究班内で意見交換を行った。

(倫理面への配慮)

本研究は、個人情報などを扱う内容ではなく、特に倫理面の配慮の必要はない。

C. 研究結果

がんの診断後間もない患者を対象として作成された情報提供資材(冊子)『がんと診断されたあなたに知ってほしいこと』へは、患者・家族にとって役立つ情報が網羅的に掲載されている。冊子の作成段階では、患者・家族ががんと診断された事実で動揺し、必要な情報を見極めることが困難となることやその心情に配慮し、最も重要な情報を分かりやすく記載することに努めた。そのため、医師・医療者は、診断初期の患者・家族に説明する必要がある項目のチェックリストとして、この冊子を使用することができる。特に、就労支援や妊孕性温存、がん相談支援センターについての情報も記載されているため、患者・家族にとって必要な情報が説明されないといった事態を防

ぐことができると考えられる。また、医師・医療者が冊子を活用することにより、患者・家族とより詳細な話し合いが可能となり、診断初期から患者・家族-医師・医療者間の信頼関係の構築に寄与することが期待される。

D. 考察

医師・医療者が冊子を活用することにより、患者や家族へ必要な情報が届けられることが期待される。今後は、本研究班での取り組み(冊子に関するオンライン説明会や実際に冊子を利用した医師へのアンケートおよびインタビュー調査など)を通じて医師・医療者へ冊子活用によるメリットを周知することが必要である。まずは、がん診療連携拠点病院をはじめとする各施設の管理者や担当者(問題意識を持つ医師、がん専門相談員など)を巻き込み、主治医が診療時に冊子を使用できる環境や体制整備が求められる。

E. 結論

がんの診断後間もない患者を対象として作成された冊子の普及には、医師・医療者による活用を進めることが重要である。今後も活用促進に向けた取り組みが必要であると考えられた。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Kwak LW, Sancho JM, Cho SG, Nakazawa H, Suzumiya J, Tumyan G, Kim JS, Menne T, Mariz J, Ilyin N, Jurczak W, Lopez Ma

- rtinez A, Samoilova O, Zhavrid E, Yañez Ruiz E, Trneny M, Popplewell L, Ogura M, Kim WS, Lee SJ, Kim SH, Ahn KY, Buske C. Efficacy and Safety of CT-P10 Versus Rituximab in Untreated Low-Tumor-Burden Follicular Lymphoma: Final Results of a Randomized Phase III Study. *Clin Lymphoma Myeloma Leuk.* Vol,22. pp89-97,2022.
- 2) Wanitpongpun C, Honma Y, Okada T, Suzuki R, Takeshi U, Suzumiya J. Tamoxifen enhances romidepsin-induced apoptosis in T-cell malignant cells via activation of FOXO1 signaling pathway. *Leuk Lymphoma.* Vol,62. pp1585-1596. 2021.
 - 3) Izutsu K, Suzumiya J, Takizawa J, Fukase K, Nakamura M, Jinushi M, Nagai H. Real World Treatment Practices for Mantle Cell Lymphoma in Japan: An Observational Database Research Study (CLIMBER-DBR). *J Clin Exp Hematop.* Vol,61.pp135-144. 2021.
 - 4) Takizawa J, Izutsu K, Nagai H, Fukase K, Nakamura M, Jinushi M, Suzumiya J. Real World Treatment Practices for Chronic Lymphocytic Leukemia in Japan: An Observational Database Research Study (CLIMBER-DBR). *J Clin Exp Hematop.* Vol,61.pp126-134. 2021.
 - 5) Izutsu K, Ando K, Ennishi D, Shibayama H, Suzumiya J, Yamamoto K, Ichikawa S, Kato K, Kumagai K, Patel P, Iizumi S, Hayashi N, Kawasumi H, Murayama K, Nagai H. Safety and antitumor activity of acalabrutinib for relapsed/refractory B-cell malignancies: A Japanese phase I study. *Cancer Sci.* Vol,112. pp2405-2415. 2021.
 - 6) 鈴宮淳司. 慢性リンパ性白血病とその類縁疾患のWHO分類と診断アルゴリズム. *日本臨牀.* Vol,79. Pp1705-1713. 2021.
 - 7) 鈴宮淳司.がん領域診療ガイドラインのアップデート造血器腫瘍. *腫瘍内科.* Vol,28. pp628-636. 2021.
2. 学会発表 なし
 3. 書籍
 - ・鈴宮淳司. 悪性リンパ腫. 日本臨床検査医学会ガイドライン作成委員会. *臨床検査のガイドライン JSLM* 2021. 宇宙堂八木書店. 東京. pp432-439.

2021.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし